

1 題材名 ネット型ボールゲーム（フロアボール）

2 題材について

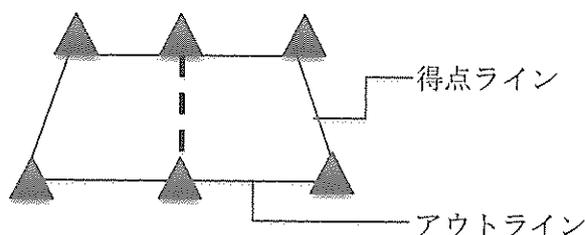
ネット型ゲームは、ネットをはさんだボールによる攻防がおもしろいゲームである。子どもたちは、これから初めてネット型ボールゲームに取り組む。入門期である今、ボール操作やルールが易しく、攻防のおもしろさをシンプルに味わえるゲームを経験させたいと考えている。

そこで今回は、ネットをはさんだボールによる攻防を楽しめる題材として、フロアボールをベースとしたゲームを取り上げた。フロアボールは、「転がしバレーボール」としてソフトバレーボールの下位教材として開発されたものを、岩田らが中学年の単元教材として採用したものである*。このゲームは「得点ラインを越えるかどうか」を競うという非常に明確な競争課題であること、また、「転がってきたボールを打ち返す」というボール操作が比較的容易なものであるということから、4年生がネット型ゲームを通して「攻防のおもしろさ」に出会うための教材として適していると考えた。

本単元では「得点ラインを越えるかどうかの攻防」を最も大切にしたい。1時間目は得点ラインの攻防を強調するために、あえて境界線としてのネットを用いず、1対1での攻防とした。初めのルールをシンプルにすることで、「この攻防をよりおもしろくするために」必要と思われるルールを加えていくことを促し、自分たちのゲームを自分たちのルールで進めることを目指した。そのため、はじめとは全く異なったルールになったり、人数が変わったりする。教師は子どもがゲームをどう変化させていくのか、どう変化させたいのかを見とり、何のためにその変化が必要なのかを整理しつつ、子どものやろうとしていることを価値づけていく必要がある。教師と子ども間で「何を競い合っているのか」を常に共有することで、ルールが変わっても、変わらず攻防のおもしろさを味わい、ネット型ゲーム本来の攻防のおもしろさに気づいてほしいと願う。

3 学習指導計画（4時間目／全9時間）

- ・ 1対1のミニゲーム … 2時間
- ・ 2対2のチーム内ゲーム … 4時間目（本時）
- ・ 2対2のチーム間ゲーム … 3時間



4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

- ・ 得点ラインを越えるかどうかの攻防を楽しむ
- ・ 攻防がおもしろくなるように工夫する

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 準備, 練習 ・ めあての確認 ・ ゲーム ・ 話し合い ・ ゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準備ができればチームごとに練習。 ・ 前時の振り返りと本時のめあての確認 ・ ゲームをやってみて変えた方がいいところを変える, 作戦を立てる, 練習をする ・ 話し合っただけの決めたことをやってみて確かめる

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

子どもたちは、得点ラインを越えるかどうかの攻防のおもしろさを実感することができたか。

* 岩田靖 (2012) 体育の教材を創る—運動の面白さに誘い込む授業づくりを求めて